



毎年、春と秋にお  
巡りさんの参拝が

あり、地元の女性たちがお茶とお菓子などで接待しています。

**下分後田の薬師如来** 字後田に行く道を入るとすぐ右に高い石段があります。登り上がると奥に薬師堂があります。周りは広い境内になっていて六体地蔵も祭っています。

お堂には「瑠璃殿」と大書した扁額が掲げてあり三体の仏像が祭られています。中央に一段高く薬師如来の像が置かれています。右手は施無畏印の形に胸に挙げ、左手に薬壺を載せて蓮華座に坐しています。蓮華座から光背（輪光）まで約九〇センチの座像です。造りの質感から木造ではないかと思われれます。



下分後田の薬師如来

お堂に瑠璃殿とあるように薬師如来は經典では東方薬師瑠璃光浄土の主尊として説かれており、薬師瑠璃光如来ともいわれます。

如来の両脇には、頭上の宝冠に阿弥陀の化仏をつけている観音菩薩と金剛杵を右手に持つ弘法大師の座像と思われる石像が並べてありますので、何か由緒あるものと思われれます。（註・化仏は本来の仏を示す飾り）

**下分の六体地蔵** 桃川の後田に薬師堂がありますが、その境内の一隅に六体地蔵が祭つてあります。

高さ約六五センチ、横幅三メートル六〇センチの基礎の上に六体の地蔵が一行、横並びに立っています。高さ四〇センチの竿石の上に載せた蓮華座に約五〇センチの光背のある地蔵菩薩が立っています。向かって左から、

天上道・人間道・修羅道・畜生道・餓鬼道・地獄道と並び、竿石の前面に地藏名を、側面には建立者名を次のように刻んであります。

|       |           |          |          |
|-------|-----------|----------|----------|
| 『 天上道 | 古賀嘉兵衛内    | 樋渡伊右工門母  | 古川太兵衛内   |
| 人間道   | 古賀武兵衛内    | 古賀市之兵衛内  | 樋渡富右衛門内  |
| 修羅道   | 伊万里古沢喜惣太内 | 同前田善吾内   | 古沢幸兵衛内   |
| 畜生道   | 渡部良助内     | 伊万里重松長十内 | 高橋古川左兵衛内 |
| 餓鬼道   | 大木松尾長兵衛内  | 松永作兵衛内   | 松永五郎兵衛内  |
| 地獄道   | 松永清兵衛内    | 伊万里松尾助十内 | 皿山 次郎兵衛内 |
|       | 樋渡兵右工門内   | 樋渡与兵衛内   | 樋渡忠蔵内    |

地獄道の台座には「文化四卯天十一月吉祥日」(一八〇七年)と刻んであります。六体地藏を建てた人は二人で、主人名の下にある「内」はその人の妻のことで、一人だけが母となっています。建立者の住所に伊万里・大木・高橋・皿山(有田)など村外の地名もあります。この村外からの寄進について、郷土史研究家の故原口静雄先生が、縁や由来など調査されたが分からなかったとのことです。

ここも近くに墓地があり、戦後までしばらく続いた土葬時代に死者を墓地に送る途中、この六体地藏の境内に立ち寄り経文を唱え焼香をして最後の別れをしていました。

観音堂の入口、石段下のすぐ際に塔身だけの六地藏があります。あつたはずの笠も破損したのか

ありません。横には墓石があつて「宝暦十三年癸未歳三月六日」(一七六三年)と刻字してあります。この墓石と六地藏との縁のほどは不明ですが、観音堂の境内が崖崩れしたとき出土した墓石とも聞き、墓地入口に立ててあつた時代を経た古い六地藏とかわれます。

#### (4) かんげぼっさん

宿分のかんげぼっさん〔歓喜天〕 宿分の豊姫神社参道入口

の西側に、地元の人が昔から「かんげぼっさん」と呼んで、仏像なのかお坊さんの墓碑なのかはつきりしないまま石仏を祭ってきました。



下分後田の六体地藏